

横山成教
小川重喬
渡邊義雄

擬律必携

四編

乙

東 京 圖 書 館	
新 門	一 四 函
一 部	二 架
類	五 〇 二 〇 號

CZ
711
02

四
〇
共
三
十
本



CZ
711
02

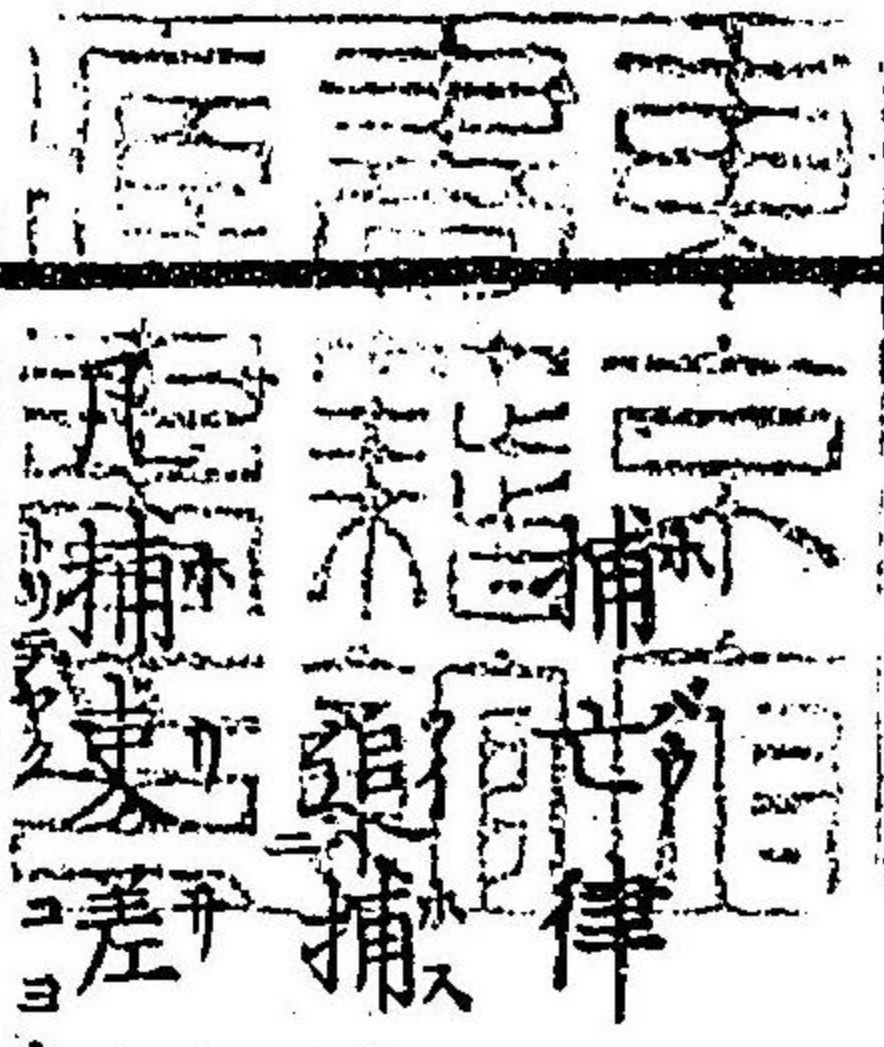
擬律必勢四編下

明治九年圖書寮交付

横山成教

小川重喬同輯

渡邊義雄



新律綱領

凡捕差遣ヲ承ケ罪人ヲ追捕スルニ事故ニ就
シテ行カス者クハ罪人ノ所在ヲ知テ捕ヘサル

者ハ杖一百

若シ財ヲ受ゲ故縱スル者ハ囚ト同罪重キ者

疑律必勢四編下

ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

京都裁判所 同十七年五月

追捕罪人律凡捕吏差遣ヲ承ケ罪人ヲ追捕スルニ事故ニ託シテ行カス若クハ罪人ノ所在ヲ知テ捕ヘサル者杖一百又同條例ニ其財ヲ受ケスシテ故縱シ及ヒ通信シテ縱シムル同罪者ハ懲役十年ニ止ムルトアリ夫レ罪人ノ所在ヲ知テ捕ヘサルハ即チ財ヲ受ケスシテ故縱スルト同一ノ罪状ナリ故ニ清律應捕人追捕罪人條輯註ニ曰

後流人逃與主守不覺失囚二律俱有不受財而故縱者此獨不言者蓋上文托故不行而知而不捕即是故縱之罪故不更言止別論受財故縱之罪耳但彼故縱者不必受財即與囚同罪而此受財故縱始與同罪不行不捕者得減罪人下等蓋此是未經到官之罪人彼則已經定案在途在獄之囚後故輕重不同トアリ囚之ハ知而不捕者財ヲ受ケスシテ故縱スルニ比スレハ其罪已ニ輕然ルニ本犯ノ輕重ヲ論セス概レテ懲役百日ニ科シ財ヲ受ケス

シテ故縱スルモノハ囚ノ輕重ニ仍テ罪ヲ
定ムルハ權衡平ヲ得サルノミナラス若シ
本犯懲役百日以下ニ訣ラハ捕吏ノ罪却テ
本犯ヨリ重ク相成主守不覺失囚律ノ故縱
スル者各囚ト同罪及藏匿罪人律ノ各罪人
ノ罪ニ一等ヲ減ストアルニ照セハ義例自
ラ差錯スルニ似タリ如何會得可仕哉

指令

追捕罪人條前項ハ本罪ノ輕重ニ拘ハラス
概シテ懲役百日ニ科シ後項囚ト同罪ナル

者ハ罪囚本罪ノ輕重ニ從テ捕吏ノ罪ヲ定
礙スルカ故ニ百日以下ノ罪人ヲ故縱スル
捕吏ノ罪却テ所在ヲ知テ捕ヘサル者ヨリ
輕クナリ知テ捕ヘサル捕吏ノ罪本犯ヨリ
重キニ至ルモアリテ權衡不安ニ似タリト
雖モ前項ハ贖ヲ聽シ後項ハ實斷ニ訣リ且
ツ訣犯ノ死ニ入ルヤ懲役終身ノ重キニ至
ル前後ノ兩項自ラ輕重アリテ義例差錯ナ
シト會得ス可シ

新潟縣伺 七年六月
二十九日

捕亡吏選率捕丁等逮捕方擔任ノ者輕キ犯
罪者ノ所_シ在_リヲ知_ルテ見_テ遁_ルシ置_キ捕_ハ獲_セサル者
ハ差_カ遣_ハヲ受_ルニ非_ス如何_ニ處_ス置_スヘキ哉

指令

事情_{コト}重_キ者_ハ新_レ律_ニ追_テ捕_ハ罪_人條_ニ依_リ輕_キ
者_ハ違_レ令_或ハ違_レ式_ノ輕_重ニ問_フ可_シ但
シ本_レ犯_ノ罪_{ヨリ}重_キニ問_フ可_ラス

捕亡律

追捕罪人條例 改定律例

第二百九十二條 凡捕吏正犯ノ財ヲ受ケ故_ニ縱_ル

スル同罪者正犯死ニ至レハ同罪者ハ絞_ニ處_ス
スル律ヲ改メ懲役終身ニ從_フト雖_モ其財ヲ
受_スシテ故_ニ縱_ルシ及_ヒ通_シ信_シテ逃_レ避_ルセシムル
同罪者ハ罪懲役十年ニ止_ル

京都裁判所伺 六月十四日

賭博_ト遂_ケ得_{サル}者_ヲ區_戸長_{ヨリ}一_應聞_糾
シ官廳_ヘ同_濟ノ旨_申成_シ私_ニ解_放スル者
違_式輕_ニ依_リ私_罪贖_例ニ照_シテ聽_贖シ右
ニ付_酒食_ノ饗_及餽_送等_ヲ受_ルニ係_ラハ枉_法
法_ヲ以_テ論_シ破_廉耻_甚ニ依_テ斷_ス可_キ哉

但不枉法ノ賍モ竊盜ト同シキニ依リ破
廉耻甚ヲ以テ可斷哉

指令

捕亡律追捕罪人條ノ後項及改定律例第二
百九十二條ニ依テ處分ス可シ 但書不枉
法ハ破廉耻ヲ以テ論スル限ニ非ス

京都裁判所 同廿三年二月

改定律例第二百九十二條捕吏正犯ノ財ヲ
受ケ故縱スル同罪者正犯死ニ至レハ同罪
者ハ絞ニ處スル律ヲ改メ懲役終身ニ從フ

ト雖モ其財ヲ受スシテ故縱シ及通信シテ
逃避セシムル同罪者ハ罪懲役十年ニ止ル
トアリ右ハ其財ヲ受ケ故縱スルハ破廉耻
ヲ以テ論シ財ヲ受サルハ破廉耻ヲ以テ論
セスシテ可然哉

指令

財ヲ受ケ故縱スル者ハ破廉耻ヲ以テ論ス
ト雖モ財ヲ受ケスシテ故縱スル者ハ情ヲ
量テ破廉耻閏刑ニ區處ス

但シ懲役百日以下ハ實決閏刑或ハ贖罪

二區處ス可レ
罪人拒捕 新律綱領

凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上
ニ二等ヲ加ヘ罪流三等ニ止ル本罪死スヘキ者
ハ常律ニ依ル捕吏ヲ殴テ折傷以上ニ至ル者ハ
絞殺ス者ハ斬從タル者ハ各一等ヲ減ス
若シ罪人詭器ヲ持シ拒捕スルニ捕吏之ヲ拾殺
シ及ヒ囚逃走スルニ捕吏之ヲ逐殺シ若クハ囚
追逐ニ因テ窘迫シ自殺スル者ハ並ニ論スル
勿レ

若シ罪囚逃走スト雖モ已ニ拘執ニ就キ及ヒ拒
捕セサルニ捕吏之ヲ殺シ或ハ折傷スル者ハ各
鬪殺傷ヲ以テ論ス若シ死罪ニ減ル罪人ヲ捕吏
一時忿激シテ擅殺スル者ハ杖九十

新潟縣伺 六年十一月十七日

捕亡律罪人拒捕條ニ罪ヲ犯シテ逃走シ追
捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等ヲ加フト有
之ハ清律註釋ニ凡シ犯罪人事發官差人拘捕
之時或逃走而不聽詢或抗拒而不服追捕
是已犯罪而又有逃走拒捕之罪故各於本罪

律例
擬律例
四
編

上加等ト有之通逃走拒捕ニ事ト心得ヘキ
哉

指令

伺ノ通

山梨裁判所伺
六年十月十九日

甲斐國都留郡
四日市場村農
法松村農志村
長田權右衛門
儀平次妻
キク

右罪案之ノ通キクハ畧賣人律條例第四百
十九條和誘シテ人ノ妻トナル者ニ強シ懲
役一年半ニ處シ可然哉權右衛門ハ律ニ正

條無之候ニ付此段奉伺候也

指令

誼犯姦婦ヲ和誘スルノ途中他人ニ阻當セ
ラル、ニ依リ威力ヲ示シ姦婦ヲ奪ハント
シテ阻當人ヲ及傷スル罪人拒捕律ヲ以テ
論シ及傷ノ本罪懲役二年ニ二等ヲ加ヘ
懲役三年
長田權右衛門

姦罪ハ輕シ論セス

改定律例第二百六十條 和姦夫アル者

同 一年

キク

律例
擬律例
四
編

七

埼。玉裁判所 罪案 六年十月

武藏國埼玉郡志多見村農人川篠三郎曰愚妻イチ下三田ヶ谷村齋藤治平ト姦通ノ風説アリ且イチ逃亡セシ故姦夫同行ト察シ壬申三月九日雨夜暗中治平イチト常ニ往來スル某家ヲ潜ニ窺フ折節無燈ニテ外ヨリ兩人来リ一人内ニ入り一人軒下ニ行ハアリ近ヨリ誰何スルニ答ヘスシテ逃避スル故愈治平ト疑ヒ追逐シ再三問ヘハ忽チ傘ヲ以テ反擲相迫ルニ付必然姦夫ト察シ

殺意ヲ發シ拔刀斬殺セシ處姦夫ナラスシテ新井重太郎ナリ重太郎ハ姦夫治平松村半七ト俱ニ持兇器強盜得財者ナリ

指令

姦夫姦婦ヲ追尋ノ際黑夜姦夫ニ似ル者ニ逢ヒ誰何姓名ヲ問フニ答ヘスシテ逃亡ト追ヒ迫ルニ及テ彼反擊シテ勢ヒ甚ク急ナルヲ以テ必然姦夫ト誤認シ斬テ斃スニ及テ姦夫ノ友ニシテ其人ニ非ス然ルニ其友應死ノ罪人ニシテ且黑夜無言ニシテ反擊急

捕亡律
心捕

嗚呼此時ニ方リ詎^ダ犯^ルノ心純^ニ然^シ以テ姦夫トナ
シ義憤ノ發スルト性命ヲ護スルノ急ナル
ト勢ヒ然ラサルヲ得ス仍テ捕亡律罪
人兇器ヲ持シ拒捕云々ニ擬ス可キノ處唯
兇器ヲ持セサルヲ以テ一時忿^イ激^キシテ擅^セ殺^ス
スル者ニ比^ヒ擬^シ

懲役九十日

入川篠三郎

白川縣伺 七年五月廿五日

捕亡律罪人拒捕條内若^シ罪囚逃走スト雖
モ已^ニ拘執ニ就キ及ヒ拒捕セサルニ捕吏

之ヲ殺シ或ハ折傷スル者ハ各鬪殺傷ヲ以
テ論スト有之律ニ折傷トアルハ一齒一指
ヲ折リ一目ヲ翳シ耳鼻ヲ抉毀シ骨ヲ破リ
及ヒ湯火ニテ人ヲ傷スル者以上ヲ申シ候
儀ニテ其折傷以下ノ文ナキハ罪ニ問ハス
シテ可然哉

指令

伺ノ通

茨城裁判所伺 七年六月三十日

御本省日誌本年第八十三号千葉裁判所伺

茲ニ賭博ヲ為ス者十人アリ捕吏僅ニ二名
ニシテ其場ニ臨ミ先ツ甲乙二人ヲ縛セン
ト已ニ手ヲ下スニ其虚隙ヲ窺ヒ逃走スル
ハ拒捕律ニ依テ處置ス可キハ勿論ニ候ヘ
トモ云々捕吏罪犯ヲ追捕スルニ罪犯逃走
スル耳ニシテ抗拒セサルハ加ニ等ノ限ニ
非スト御指令有之候然ルニ捕亡律罪人拒
捕條ニ凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者
ハ各本罪上ニ二等ヲ加フトアルト雖モ賭
博罪ニ限ラス何罪ニモ右ヲ援引致可然哉

將タ賭博罪ニ限リ候哉

指令

賭博罪ニ限ラス各罪モ亦同シ
獄囚脱監及反獄逃走新律細領
凡罪ヲ犯シ囚禁セラレテ脱監及ヒ越獄シテ逃
走スル者ハ各本罪上ニ二等ヲ加ヘ罪流ニ等ニ
止ル本罪死スヘキ者ハ常律ニ依ル
若シ罪囚反獄シテ逃走スル者ハ皆斬同牢ノ囚
人反情ヲ知ラサル者ハ坐セス
其罪囚水火震災ノ変ニ因テ逸出シ投歸スル者

ハ斬絞以下各、一等ヲ減ス

廣島縣伺 七年三月廿七日

凡罪犯已ニ捕縛ニ就キ看守押解人ノ懈惰ヲ窺ヒ逃走スル者ハ律例中適條無之候處右ハ捕亡律獄囚脱監及ヒ反獄逃走條例凡脱監及ヒ越獄シテ逃走スル者ヲ以テ論シ本罪ニ二等ヲ加可然哉又ハ同條例中凡犯人責付内ニ逃走スル者ニ準シ本罪ニ一等ヲ加可然哉

指令

脱監越獄ヲ以テ論シ本罪上ニ二等ヲ加フ

新潟縣伺 七年三月廿日

未決ノ囚脱監反獄ヲ謀リ既ニ監獄ヲ毀損シ未タ逃走セサル者如何處置可致哉

指令

脱監ヲ謀リ未タ成ラサル者捧鎖下日反獄シテ成ラサル者ハ三日ニ處ス可シ獄囚脱監及反獄逃走條例改定律例

第二百九十三條 凡脱監及ヒ越獄シテ逃走スル者ハ各本罪上ニ二等ヲ加ヘ罪流ニ等ニ止

ル律ヲ改メ懲役終身ニ止ル

第二百九十四條 凡反獄シテ逃走スル者ハ皆

斬ニ處スル律ヲ改メ首ハ斬後ハ懲役終身

第二百九十五條 凡罪囚糾合シテ越獄スルニ

後ハ不實ニ據テ首報シ因テ罪囚即時ニ獲ニ

就キ脱逃ヲ致サ、ルヲ得ル者及ヒ反獄ノ

情ヲ知テ首報スル者ハ斬絞以下各本罪ニ一

等ノ減ス

第二百九十六條 凡脱監及ヒ越獄シテ逃走ス

ル者再逃以上ハ又二等ヲ累カシ罪懲役終身

ニ止ム懲役場ヲ逃走シ又監獄ヲ脱越スル者
罪亦同

大分縣伺 六年七月廿五日

改正獄囚脱監及反獄逃走條例ニ脱監及ヒ

越獄シテ逃走スル者再逃以上又二等ヲ累

加シ云々トハ未タ論決ヲ經サル者ヲ云フ

乎譬へハ竊盜贓二十圓ヲ犯シ繫獄中脱越

逃走シ外ニ在テ金十圓ヲ犯シ再ヒ脱監逃

走セシ者未タ論決ヲ經サレ凡之ヲ再逃ト

云ヒ又二等累加トハ前後ノ贓ヲ併セ三十

圓懲役九十日ニ初メ脱監ノニ罪ヨリ二等ヲ加ヘ懲役一年ノ處再逃ノ罪ヲ以テ又二等ヲ累加通シテ四等ヲ加ヘ懲役二年ニ擬スル類カ將々再逃後竊盜十圓ヲ犯セシキハ節次ノ贓四十圓ニ四等ヲ加フ可キ哉竊盜贓一圓以上ヲ犯シ脱監逃走スルニ依リ二等ヲ加ヘ懲役八十日既決放還ノ後竊盜再犯ノ贓二十圓ヲ犯シ又脱監逃走シ外ニ在テ竊盜或ハ準竊盜贓十圓ヲ犯ス者再犯以後ノ贓ヲ併セ三十圓懲役九十日逃走

ノ罪二等ヲ加ヘ再逃ノ罪ヲ以テ又二等ヲ加ヘ通シテ四等ヲ加ヘ懲役二年ニ處ス可キ哉然ルニ綱領再犯加等ノ例ニ依ル片ハ本罪ニ一等ヲ加フルノ罪ナル故竊盜再犯ノ罪一等ヲ加ヘ脱監ノ罪又二等ヲ加ヘ再逃ノ罪又復二等ヲ加ヘ通シテ五等ヲ累加スル乎脱監再逃ノ處シ方如何

指令

第一條 再犯以上ハ二等ヲ累加ストハ論決ヲ經ル者ヲ云フ未タ論決ヲ經スニテ再

逃スル者ハ累加ノ限ニアラス

第二條 竊盜ヲ犯シ脱監逃走スルニ依リ

二等ヲ加ヘ處決放免ヲ經テ復竊盜ヲ犯シ

監獄ニ在リ脱監逃走シ外ニ在テ又竊盜等

ヲ犯ス者ハ賍ヲ併セ再盜ノ一等ト又脱監

ノ二等通シテ三等ヲ加フ

第二百九十七條 凡犯人責付内ニ逃走スル者

ハ本罪ニ一等ヲ加フ若シ囚禁及ヒ責付内ニ

逃走シテ自首スル者ハ止々本罪ヲ科シテ逃

罪ヲ免ス

徒流人逃 新律綱領

凡徒流ノ囚人役限未タ満スシテ逃走スル者ハ

杖七十仍ホ配所ニ發シ其徒流原犯ノ年限ニ照

シテ新ニ拘役シ已ニ役過セシ月日ハ並ニ通算

セス再ヒ逃走スル者ハ絞

若シ已ニ斷決セシ徒流ノ罪囚ヲ發遣シ未タ配

所ニ到ラス中途ニシテ逃走スル者モ罪亦同

若シ主守押解人罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者

ハ一名ニ笞四十一名毎ニ一等ヲ加ヘ罪杖一百

ニ止ル故殺スル者ハ各囚ト同罪罪流三等ニ止

ル財ヲ受ル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

徒流人逃條改正 明治七年二月七日 太政官十六号御布告

主守及ヒ押解人罪囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ一名ニ答四十一名毎ニ一等ヲ加ヘ罪杖一百ニ止ルノ律ヲ改メテ未決ノ罪囚ト同シク主守不覺失囚律ニ依ル

懲役人逃條例 改定律例 原徒流人逃律

第二百九十八條 凡懲役一年以上ノ囚人限内逃走スル者ハ杖七十改テ捧鎖二日再ヒ逃走

スル者ハ絞改テ懲役終身

第二百九十九條 凡懲役百以下ノ囚人限内

逃走スル者ハ捧鎖一日仍ホ原犯ノ日限ニ照シテ新ニ拘役シ再ヒ逃走スル者ハ捧鎖二日更ニ懲役一年ニ入ル若シ外ニ在テ又百日以下ノ罪ヲ犯セハ原犯後犯ヲ通算シテ新ニ拘役ス其一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止夕後犯ノ年限ニ照シテ更ニ科斷ス

第三百條 凡懲役一年以上ノ囚人逃走スル者ハ例ニ照シ捧鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シ

テ新ニ拘役スト雖モ若シ逃走シ外ニ在テ又
三年以下ノ罪ヲ犯セハ後犯ノ年限ニ原犯ノ
年限ヲ合セテ拘役スルモ亦四年ニ過ルヲ
得ス百日以下ノ罪ヲ犯ス者モ亦原犯ニ合セ
テ拘役ス其五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止夕後
犯ノ年限ニ照シテ科斷ス

度會縣伺

七年一
月八日

紀伊国牟婁郡能城
村農善右衛門伴

鈴木 源吾

右罪案之ノ通捕亡律懲役人逃條例ニ依リ
捧鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シ新ニ拘役

三年外ニ在テ贓金一圓以上ノ竊盜ヲ犯ス
ニ依リ六十日ヲ合セ懲役三年ト六十日可
申付處其捕吏追捕ヲ拒ク呀ノ被傷人ノ疵
ハ折傷以上ニ至ラサルヲ以テ本罪ニ二等
ヲ加ヘ懲役七年ト拘役六十日可申付哉

指令

懲役三年ノ囚人限内逃走シ追捕ヲ拒ク者
捕亡律罪人拒捕條ニ依テ本罪上ニ二等ヲ
加ヘ懲役例第三百條ニ照シテ後新拘役シ
外ニ在テ犯スノ竊盜罪ハ贓金一圓以先キ

ニ強盜罪ヲ犯スヲ以テ丁等ヲ加ヘ原犯ニ
加役シ

棒鎖ニ懲役七年七十日 鈴木 源吾

第三百一條 凡懲役五年以上ノ囚人限内逃走
スル者モ亦例ニ照シテ棒鎖ニ日仍ホ原犯ノ
年限ニ照シテ新ニ拘役スト雖モ若シ逃走シ
外ニ在テ重ネテ五年以上十年以下ノ罪ヲ犯
ス者ハ並ニ拘役四年ヲ加フ其丁年以上三年
以下ノ罪ヲ犯ス者ハ後犯ノ年限ヲ折半シテ
加役ス其百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ役限ヲ全

加シテ折半スルヲ用ヒス

和歌山縣伺

越後国蒲原郡 井伊清次郎
堀越村無宿
阿波国徳島 大津 虎蔵
海老屋町工

右罪案之ノ通改定律例懲役人逃條例ニ依
リ清次郎ハ棒鎖ニ日新ニ懲役五年ノ上竊
盜六十圓以上再犯丁等ヲ加ヘ懲役二年ノ
折半ヲ以テ丁年ノ加役虎蔵ハ棒鎖ニ日仍
ホ原犯懲役三年ハ後犯竊盜六十圓以上ノ
後懲役丁年ヲ合セ更ニ懲役四年處断イタ

シ可然哉右ハ使役場ヨリ逃走イタス儀ニ
無之病監ヲ脱逃スル者共ニテ疑案ニ依リ
候ニ付此段相同候也

指令

懲役五年ノ囚人限内ニ逃走シ外ニ在テ重
テ罪ヲ犯スニ竊盜再犯六十圓以上懲役二
年ナルヲ以テ 改定律例第三百一十條 凡
懲役五年以上ノ囚人限内逃走スル者モ亦
例ニ照シテ棒鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照
シテ新ニ拘役スト雖モ若シ外ニ在テ重ホ

テ一年以上三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ後犯
ノ年限ヲ折半シ加役スト云ニ依リ

棒鎖二日

井伊清次郎

懲役六年 贓金六十圓餘

懲役三年ノ囚人限内ニ逃走シ外ニ在テ重
ホテ罪ヲ犯スニ竊盜ノ後六十圓以上懲役
一十年ナルヲ以テ 同律例三百條 凡懲役
一十年以上ノ囚人逃走スル者ハ例ニ照シテ
棒鎖二日云々若シ外ニ在テ又三年以下ノ
罪ヲ犯セハ後犯ノ年限ニ原犯ノ年限ヲ合

セテ拘役スルモ亦四年ニ過ルヲ得スト
云ニ依リ

捧鎖ニ日懲役四年、大津 虎藏

第三百二條 凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ
絞

第三百三條 凡懲役人逃走シテ自首スル者ハ
逃罪ヲ免シ仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘
役ス若シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ自首法ニ
照シテ首免ヲ與フト雖モ其逃罪及ヒ後新拘
役ハ仍ホ本法ヲ盡ス

滋賀縣伺 七年五月廿八日

改定律例第三百三條懲役人逃走シテ云々
若シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ自首法ニ照
シ首免ヲ與フト雖モ其逃罪及ヒ後新拘役
ハ仍ホ本法ヲ盡ストアリ脱監及越獄シ外
ニ在テ又罪ヲ犯シ自首スル者モ右ニ權衡
ヲ取リ外ニ在テ犯スノ罪ハ首免ヲ與フト
雖モ加等ス可キノ罪ハ本法ヲ盡シ候哉又
ハ已決ノ者ト異ナルニ依リ在外ノ犯罪及
ヒ加等スヘキ罪モ并全免致シ候哉

指令

脱監及ヒ越獄シテ逃走シ外ニ在テ又罪ヲ
犯シ自首スル者外ニ在テ犯スノ罪ハ首免
ヲ與フト雖モ逃罪ノ加テ等ハ仍ホ本法ヲ
盡ス

第三百四條

凡懲役人ノ逃走ヲ報シ因テ逃走
ヲ致サ、ルヲ得ル者ハ本罪ニテ等ヲ減ス

筑摩縣伺

六年十二月七日

信濃國伊那郡上總村農 塩澤清兵衛

右ハ罪案

畧

ノ通りニ付強盜條ニ照シ斬罪

可申付ノ處同獄禁囚筑摩郡庄内村杉本友
吉儀伊那郡高遠袋町伊藤喜平次へ同人ハ
輕科ニモ有之不日未放ノ上ハ破獄ノ器械
差入吳候様及情話候ヲ首報致シ候者ニ付
減一等懲役終身可申付哉 追テ本文友吉
外下人律上の款無之ニ付添テ相伺候

指令

強盜財ヲ得ル者斬罪ノ處同囚
逃走ノ企ヲ首報スルニ依リ 捕亡律 懲
役人逃條例懲役人ノ逃走ヲ報シ因テ逃走

ヲ致サ、ルヲ得ル者ニ比照シ

懲役終身圓金十 塩澤清兵衛

監獄則第八條賞罰ノ部脱監逃亡等ヲ企ル

者ハ之ヲ第十一則ノ罰ニ處シ云々トアルニ

據リ

捧鎖一日宛

杉本 友吉
伊藤喜平次

京都裁判所 同 七年八月三十一日

改定律例第三百四條凡懲役人ノ逃走ヲ報

シ仍テ逃走ヲ致サ、ルヲ得ル者ハ本罪

ニ一等ヲ減スト之アリ候處苦役囚多ク糾

合シ逃走スルニ假令ハ懲役一年ノ者同ニ

年以上ノ囚ヲ捕獲レテ或ハ罪等シキ者同ニ

下半以上ヲ捕獲レテ首告スレハ其逃罪及

ヒ原犯ノ罪モ全免可致哉將タ其逃罪ヲ免

シ原犯ノ罪ハ仍ホ一等ヲ減スルニモ可有

之哉

指令

本文ノ如キハ已ニ處決ヲ經ル者ニ付犯罪

共逃條ニ依ルヲ得ス例第三百三條ニ依テ
逃罪ヲ免シ捕獲ノ功ハ例第二百四條ニ比
擬レ本罪ニ一等ヲ減ス

第三百五條 凡懲役人逃走ヲ圖リ未タ役場ヲ
離レスシテ捕ニ就ク者ハ捧鎖二日後新拘役
ノ限ニ在ラス

白川縣伺 七年七月
三十日

改定律三百五條凡懲役人逃走ヲ圖リ未タ
役場ヲ離レスシテ捕ニ就ク者ハ捧鎖二日

後新拘役ノ限ニ非スト有レ之再犯スル者正
條無レ之ニ付仍ホ捧鎖二日ニ止メ三犯四犯
ニ及フモ加等ノ例無レ之哉將タ又終身懲役
ノ者ト雖モ未タ役場ヲ離レサレハ捧鎖二
日ニ其再犯以上ノ如キモ亦捧鎖二日ニ止
メ可然哉

指令

伺ノ通

第三百六條 凡懲役人水火震災ノ変ニ因ニ逸
出シ二十四時間ニ投歸スル者ハ逃罪ヲ問ハ

ス若シ時ヲ過テ投歸セサル者ハ例ニ照シテ
棒鎖二日仍ホ原役ノ剩ル日數ヲ役ス其變ニ
遇ヒ内ニ在テ逸出セス能ク消救防禦スル者
ハ本罪二一等ヲ減ス

山形縣伺 七年四月廿三日

本月二十一日午前第二時頃當山形市街五
日町ト申所ヨリ失火ニ及ヒ時ニ西南ノ曉
風烈ク近衛兩三町ニ延蔓瞬息ノ間ニ舊郭
内貫屬ノ長屋拾軒餘ニ轉燒シ忽チ官員居

注ノ官舎ニ飛火シ縣廳屋根及ヒ圍屏ヲ燒
キ庭前ノ樹林ニ燃付キ候諸官吏消防手ヲ
盡スト雖モ同所ハ盡ク藁家根ニシテ火團
雨下殆ト困難ヲ極ム於是臨機ノ取計ヲ以
テ兼テ外役ヲ聽ヒシ懲役人五十三人ヲ遽
ニ牽出シ火烟ノ間ニ驅逐レ危嶮状ス可ラ
サルノ難事ヲ為サレメ血類堪フ可ラサル
ノ苦役ヲ執ラシム同人共ニ於テハ能ク論
ニ從テ奔走上下身体ノ糜爛スル迄力ヲ尽
シ之カ爲メ縣廳僅ニ災害ヲ免ル、ヲ得タ

リ右五十三人ノ懲役人ハ實ニ憫然奇特ノ者ニ甘改定律例第三百六條ニ依テ論シ下等減ノ恩赦有之度別紙懲役限表之畧相添奉伺候也

指令

伺ノ通

第三百七條 凡禁錮限内外人ニ接見通信シ若クハ疾病療養等ニ託シテ潜出行歩スル者ハ原限ノ年日ニ照シテ新ニ之ヲ科ス
若シ潜出シテ他ニ投宿シ及ヒ縱飲スル等ニ

係レハ懲役七十日贖罪スルヲ聽シ仍ホ新ニ原限ヲ科ス

宮崎縣伺 七年三月十三日

士族罪ヲ犯シ其家ニ禁錮中脱走スル者ハ懲役百日以下以上ノ原犯ニ關係セス下休ニ破蕪耻甚キヲ以テ論シ除族ニ止メ可申哉
將除族ニ及ハス懲役人逃條ニ依リ棒鎖ヲ日數ニ換へ處断可致哉

前條士族禁錮中脱走ノ者若シ懲役人逃ノ

條例ニ依リ棒鎖ヲ日數ニ換ヘ原犯ニ加ヘ候節ハ棒鎖一丁目ヲ幾日ニ見込處断レ可然哉

指令

二條共禁錮限内逃走スル者ハ改定律例第三百七條ニ依リ處令ス其同居ノ父兄アレハ保管人ヲ以テ論シ改定律例第三百十條ニ依テ處令ス可シ

主守不覺失囚 新律綱領

凡主守罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ答四十
若シ罪囚反獄シテ逃走スルトキハ一等ヲ減ス
故ニ未タ断決セサルノ間自ラ捕獲シ及ヒ他人
捕得シ若クハ囚已ニ死シ及ヒ自首スレハ各一
等ヲ減ス財ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ枉法ヲ以テ重
キニ從テ論ス
若シ賊外ヨリ獄ニ入り罪囚ヲ劫スニ防禦スト
雖モ力敵スル一能ハサル者ハ論スル一勿レ
主守不覺失囚條例 改定律例

第三百八條 凡主守看守ニ失シ因テ未決ノ囚
自盡ニ至ラシムル者ハ懲役三十日

第三百九條 凡主守囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ
捕限三十日ヲ給シ追捕セシム限内捕得スレ
ハ二等ヲ減ス其故縱スル者ハ捕限ヲ給セス

白川縣伺 廿五年十一月

主守囚ノ逃走スルヲ覺ラサルハ懲役四十
日捕限内捕得スルヲ二等減ノ律例ニ候處
主守罪囚五名ノ脱スルヲ覺ラサル者アリ
限内只輕囚一人ヲ捕得ス脱囚罪名ノ見込

一人ハ懲役二年半一人ハ八十日一人ハ七
十日二人ハ六十日綱領及ヒ新例ニハ無之
候ハ共清律集成主守不覺失囚條頭書ニ應
捕人追捕條内託故不捕罪人者止減罪人一
等給限三十日此減二等給限一百日以彼近
于故縱而此由不覺也彼捕得一半以上及
獲最重者皆得免罪此獨不然以彼非在禁之
囚而此有典守責也假令重罪囚已捕已死已
首而輕囚未獲輕依未獲輕囚之罪減二等ト
有之清律ハ素ト脱囚ノ本罪ヨリ二等ヲ減

シ新律ハ脱囚ノ輕重ニ據リ無ク咎四十ヨ
土臺ニ立限内捕得スレハ二等減ノ究ニテ
律ノ由テ起ル所異ナレハ勿論比附援引ハ
不相成ト雖モ右脱囚五名ハ五名ナカラ或
ハ一半以上ヲ捕得スル者ト内一名ヲ捕得
スル者トハ主守ノ罪減等ニ於キ聊斟酌ノ
衡無クンハアルベカラサル儀ト被考候若
クハ二等減ヲ一等減ニモ可致哉

指令

罪ノ輕重囚ノ多寡ニ論ナク捕限内能ク捕

得スル者ハ改定律例第三百九條ニ依リ本
罪ニ二等ヲ減ス

埼玉裁判所伺 十七年六月十五日

改定律例第三百九條凡主守囚ノ逃走ヲ覺

ラサル者ハ捕限三十日ヲ給シ追捕セシム

限内捕得スレハ二等ヲ減スト云フハ自ラ

捕得スル者ニ限り其他人捕得シ若クハ囚

已ニ死シ及ヒ自首スル等ハ仍ホ律文ニ照

依シ各一等ヲ減スル事ト心得候如日誌本

年七十九号四月廿七日ノ部滋賀縣伺第三

條御指令ニ依レハ自他ノ別ヲ論セス以上
各節並ニ減二等ニ從ヒ可然哉
主守故縱スル者ハ未斷決間自ラ捕獲スル
モ仍ホ律ノ通減一等ニ候哉

指令

第一條 伺ノ通

第二條 自他ヲ論セス減一等ニ從フ

第三百十條 凡保管人囚ノ逃走ヲ覺ラサル者

ハ主守不覺失囚律ニ二等ヲ減ス

埼玉裁判所伺 十七年六月十五日

保管人囚ノ逃走ヲ覺ラサル者舊慣ノ通六
月間捕限ヲ與ヘ限内自ラ及ヒ他人能ク捕
得シテ若クハ囚出首シ及ヒ死亡スレハ並
ニ主守不覺失囚罪ニ四等ヲ通減シ可然哉
保管人ノ故縱スル者ハ罪人ノ罪ニ二等ヲ
減シ未タ斷決セサルノ間自ラ捕得シ及ヒ
他人捕獲シ若クハ囚已ニ死シ及自首スレ
ハ又各二等ヲ減シ可然哉
囚ノ逃走ヲ覺ラサル主守及ヒ保管人假令
ハ逃走ノ囚五名ニシテ其内一名以上ヲ自

ヲ捕得スレハ囚仍ホ^{ケツ}缺失^{ケル}アルモ各減等法ニ從ヒ他人ノ捕獲ニヨルモ亦之レニ準シ候哉或ハ必ス五名ヲ得ルニ至テ初テ減等ヲ用ユル哉

同上逃走ノ囚内一名以上死亡及ヒ自首シテ尚余囚ノ失^シ踪スル者アルトキ主守並ニ保管人ノ處分如何奉伺候也

指令

第一條 伺ノ通但シ捕限ハ三十日ヲ給ス
第二條 保管人罪囚ヲ故^コ縱スル者及未斷

決ノ間自他捕得シ若クハ囚已ニ死シ及ヒ自首スル者主守不覺失囚律ニ依リ主守ト同ク處分ス

第三條 全囚ヲ捕得セスト雖モ能ク一名ヲ捕得スル者ハ自他ヲ論セス減等スルヲ聽ス

第四條 主守ハ例第三百九條ニ依リ捕得スルト同ク減二等ニ從ヒ保管人ハ前第三條ト同ク處分ス

藏匿罪人ヲ新律綱領

凡他人罪ヲ犯シ事發シテ官司人ヲ惹ハシ追喚
スルヲ知リ家ニ藏匿シテ捕告ヲ行ハス及ヒ逃
走スル道路ヲ指引シ衣糧ヲ資給シ送テ他所ニ
隠避セシムル者ハ各罪人ノ罪ニ一等ヲ減ス其
輾轉シテ相送り罪人ヲ隠匿スル者情ヲ知ル者
ハ皆坐ス知ラサル者ハ論スルヲ勿シ
若シ官司ノ追捕ヲ偵知レテ其事情ヲ漏洩シ罪
人ヲシテ隠避セシムル者ヒ罪人ノ罪ニ一等ヲ
減ス未ノ断決セサルノ間自ヲ捕獲スル者ハ罪
リ免ス若シ他人捕得シ反ヒ罪人已ニ死シ若ク

ハ自首スレハ又各一等ヲ減ス
其罪人ニ迫劫セラレ力制スルヲ能ハス已ム
ヲ得スシテ藏匿スル者ハ三等ヲ減ス

東京裁判所 同 十五年十月

東京 橋谷町 石川喜三郎

右罪案之畧ノ通捕亡律藏匿罪人ノ條ニ擬斷
スヘク所本犯三五郎ハ故殺ヲ行ヒ誤テ傍
人ヲ殺ス者ニモ諒ルト雖モ自今失踪ニ同
人下手トモ決シ難ク依テハ該犯處斷ノ的
律無之候間此段相伺候也

指令

誅犯臨時罪人ノ所在ヲ実見スルノ差遣ヲ
 受ケ其所ニ到リ私情ニ牽連シテ追捕ノ事
 情ヲ漏泄シ罪人ヲシテ隱避セシノ捕吏ニ
 告ルニ不在ヲ以テス 藏匿罪人條 官司
 ノ追捕ヲ眞知シテ其事情ヲ漏泄シ罪人ヲ
 シテ隱避セシムル者ニ擬シ條例ニ依リ罪
 人ノ罪ニ二等ヲ減シ懲役五年ノ所罪人自
 首スルヲ以テ又一等ヲ減シ

懲役三年

石川喜三郎

藏匿罪人條例 改定律例

第三百十一條 凡官司人ヲ差ハシ追喚スル罪
 人タルヲ知テ爲メニ藏匿指引シテ隱避セ
 レタル者ハ各罪人ノ罪ニ一等ヲ減スル律ヲ
 改メ減二等ニ從フ若シ罪人未タ官司ノ追喚
 ニ係ラス若クハ已ニ追喚スル者ト雖モ未タ
 知ラスシテ藏匿隱避セシムル者ハ俱ニ情ヲ
 量テ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツ

京都裁判所 三十七年八月一日

改定律例第三百十一條凡官司人ヲ差ハシ

追喚スル罪人タルヲ知テ爲メニ藏匿指
引シテ隱避セシムル者ハ各罪人ノ罪ニ一
等ヲ減スル律ヲ改メ減二等ニ從フ云々ト
之アリ然ルニ今爰ニ一次監守盜一百圓ヲ
犯シ二次鬪毆ニ依テ人ヲ廢疾ニ致セシニ
罪アル者其監守盜ノ情ハ明サス止々其毆
傷ノ罪ヲ告ルニ依テ爲メ之ヲ藏匿スル者
アリハ其罪ヲ擬スル素ヨリ本犯ノ盜情ハ
知ラサル者ニ依リ其知ル所ノ鬪毆罪懲役
三年ヨリ二等ヲ減シ同二年ニ可科断哉

指令

伺ノ通

断獄律

故禁無罪人

凡官吏私讎ヲ懷挾シ故サラニ無罪人ヲ禁獄ス
ル者ハ徒一年因テ死ニ致ス者ハ絞司獄官獄卒
知テ舉首セサル者ハ同罪罪流三等ニ止ル知ラ
サル者ハ坐セス
若シ官吏私讎ヲ懷挾シ故サラニ無罪人ヲ拷訊
スル者ハ徒一年折傷以上ハ凡鬪傷ニ二等ヲ加

フ因テ死ニ致ス者ハ斬同僚官獄卒情ヲ知テ共ニ拷訊スル者ハ同罪罪流三等ニ止ル知ラサル者ハ坐セス

陵虐罪囚

凡獄卒非理ニ在獄ノ罪囚ヲ陵虐毆傷スル者ハ凡鬪傷ニ依テ論ス罪囚ノ衣食ヲ減減スル者ハ賍ニ計ハ監守自盜ヲ以テ論ス因テ死ニ致ス者ハ絞司獄官吏知テ舉セサル者ハ同罪罪流三等ニ止ル

北條縣同罪案 六年十一月

美作國東南條郡本鄉村葛周次郎囚獄下働曰私旧穢多ナルヲ以テ常ニ輕蔑スル藤井善藏暴動一件ニテ入獄セラルト聞キ兼テノ宿怨ヲ晴サント欲シ獄中ニ於テ惡事篤ト可取調旨囚人清水市三郎ニ竊ニ申付レ處善藏入獄ノ節市三郎并同囚大次郎兩人ニテ足ヲ以テ蹴或ハ藁ヲ束ネ打擲セシ由大次郎ハ竊盜兩度ノ上辛未十月生野縣探索ト詐稱シ飲食ヲ貪リ又竊盜シ市三郎ハ父ノ命ニ從ヒ贖札ヲ行使セシ者

指令

前日ノ私怨ヲ含ミ在獄ノ罪囚ヲ疾苦ヒシ
 ノント計リ窺ニ同囚ニ糾問スルヲ命シ同
 囚其言ニ悖リ難ク糾問ノ上手尺或ハ笞鞭
 ヲ以テ殴打スル其殴打ハ頭然談犯ノ言ニ
 出スト虽モ其意素ヨリ疾苦セシメントス
 ルニアルヲ以テ威力制縛首後ノ法ニ依リ
 断獄律 獄卒非理ニ在獄ノ罪囚ヲ陵虐毆
 傷スル者凡闘傷ニ依テ論スト云フニ依リ
 瓦石槌棒等ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成サ、ル

者ニ擬シ

懲役三十日

葛 周次郎

葛周次郎後トナシ一等ヲ減シ

同二十日

清水市三郎

贗札ヲ使行スルハ一家共犯律ニ依リ

論セス

探索人ト詐称シ求為スル所アル者 詐偽
 律詐称官條 官司ノ差遣ト詐称シテ求為
 スル所アル者犯ス所輕キヲ以テ

同七十日

大次郎

竊盜罪及ヒ同囚ヲ毆打スルハ並ニ輕シ論セス

與囚金刃

凡獄卒金刃及ヒ他物ノ自殺スヘク及ヒ解脫スヘキノ具ヲ以テ囚ニ與フル者ハ杖一百囚テ囚逃走シ及ヒ自傷シ或ハ人ヲ傷スルヲ致ス者ハ徒一年若シ囚自殺シ及ヒ人ヲ殺ス者ハ徒二年若シ財ヲ受ル者ハ杖ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

與囚金刃條例

第三百十二條 凡常人囚ニ金刃ヲ與ヘ及ヒ子孫祖父母父母ニ與ヘ雇人家長ニ與フル者ハ各獄卒ノ罪ニ一等ヲ減ス

第三百十三條 凡獄卒金錢其他應禁ノ物ヲ傳應シテ囚ニ與フル者ハ違令重ニ問フ若シ財ヲ受ル者ハ杖ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

教囚翻異

凡司獄官獄卒罪囚ニ教令シテ事情ヲ翻異變亂セシメ及ヒ為ニ言語ヲ外人ニ通傳シ其罪ヲ増

減スル者ハ故出入人罪律ヲ以テ論ス外人ノ犯
ス者ハ一等ヲ減ス若シ財ヲ受ル者ハ並ニ賍ニ
計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

老幼不拷訊

凡年七十以上十五以下若クハ廢疾者ハ並ニ拷
訊ス可カラス皆衆證ニ據テ罪ヲ定ム違フ者ハ
故出入人罪律ヲ以テ論ス其相容隱スルヲ得
ルノ人及ヒ年八十以上十歳以下若クハ篤疾者
ハ皆證タラシムルヲ得ス違フ者ハ笞四十

兵庫裁判所 七年三月十八日

新律綱領老幼不拷訊條中ニ違フ者ハ故朱
入人罪律ニ依ルト有之右違フトハ上文ノ
拷訊スヘカラスト云フ禁令ノ辭ヲ受ケタ
ルナルヘシ總テ人罪ヲ入ル、トハ本罪懲
役一十日ヲ二十日ニ變シ一年ノ二年ニ處
スル等ニテ日數年數ニ因リ計算乘除明了
ニ候處其拷訊ヲ加ヘタル者ヲ入人罪ノ律
ニ因ルトハ其計算ノ方法實地上如何相心
得可然哉

指令

老幼廢疾者云々違フ者ハ故失入人罪律ニ
依ルトハ拷訊シテ罪ニ故出入アルキヲ云
フ若シ故出入ナキモ律ニ違ト拷訊スル者
ハ情ヲ量リ違制輕重ニ問フ

獄囚誣指無罪人

凡罪囚獄ニ在テ無罪人ヲ誣指スル者ハ誣告ヲ
以テ論シ其本犯罪重キ者ハ重キニ從テ論ス
若シ官吏獄囚ヲ鞫問スルニ非法ニ拷訊シ故サ
ラニ教令ヲ行ヒ無罪人ヲ誣指スル者ハ故入人
罪律ヲ以テ論ス

若シ囚ヲ鞫シテ證佐ノ人實情ヲ言ハス故サラ
ニ誣證ヲ行フ者ハ罪人ノ罪ニ二等ヲ減ス

出入人罪

凡官吏故サラニ人ヲ罪ニ出入シ全ク出タシ全
ク入ル、者ハ出入スル所ノ全罪ヲ以テ論ス若
シ故サラニ輕ヲ増シテ重ト作シ重ヲ減シテ輕
ト作ス者ハ其増減スル所ノ罪ヲ以テ坐ス死ニ
至ル者ハ坐スルニ死罪ヲ以テス
若シ罪ヲ斷シテ入ル、ニ失スル者ハ各三等ヲ
減ス出タスニ失スル者ハ各五等ヲ減ス並ニ罪

所由ヲ以テ首ト為ス
若シ囚未タ處決放免セス及ヒ放テ還タ獲若ク
ハ獲若クハ囚自死スレハ官吏ノ罪又各一等ヲ
減スルヲ聽ス

滋賀縣伺 七年三月十一日

斷獄官吏罪人ヲ推鞠スルニ故サラニ推鞠
ヲ盡サス其俸放縱スルノ類ハ出入人罪條
ニ依ル乎果タ追捕罪人條ニ依リ可然哉
但シ若シ出入人罪條ニ依リ候ハ、其故
縱スル所ノ罪囚逃走捕獲ヲ得サルトキ

ハ官吏ノ罪ハ如何處斷シテ可然哉

指令

故出入人罪ヲ以テ論ス故サラニ推鞠ヲ盡サ
ス放免スル官吏ハ罪人本罪ノ有無輕重ヲ
知ラサルノ理無シ必シモ逃囚捕獲ノ後ニ
非スト雖モ斷獄官吏ヲ推鞠シテ故出ノ罪
ヲ定擬スヘシ
出入人罪條例

第三百十四條 凡故ニ出入シ及ヒ入ル、ニ失
スル罪人ハ已ニ斷了ヲ經ルト雖モ檢舉シテ

改正スルヲ得ヘキ者ハ改正シ其出タスニ
失スル者ハ貼断スルヲ用ヒス

京都裁判所 七年八月
三十一日

今爰ニ盜賊アリト一圓以上ヲ犯スニ依リ
竊盜條ニ依リ罪ヲ擬シ懲役六十日ニ科ス
可キ所誤テ詐欺取財條ニ依リ擬定致シト貼
一圓以上同六十日ニ處断セリコレ其竊盜
ト準盜ト罪相等キニ依リ出入ナシト雖モ
一ハ犯數ニ計ヘ一ハ否セサルヲ以テ改貼
致ス可キ哉將夕例三百十四條出スニ失ス

ル者貼断ヲ用ヒスト云ニ照準ニ改貼セス
シテ可然哉若シ然ラハ其失スル官吏ハ仍
ホ出入人罪律ニ依リ五等ヲ減シ懲役一十
日ヲ可科哉將夕断罪不當條決配ス可キヲ
收贖ニ失スル者ニ比擬シ失出入人罪律ニ
一等ヲ減ス可キ哉

指令

本犯ハ例第三百十四條ニ依リ貼断スルヲ
用ヒス當該官吏失出入人罪律ニ科ス可キ
ノ所罪増減無キヲ以テ坐ス可キノ刺罪ナ

第三百十五條 凡官司屍傷ヲ檢視シテ實ナラ
サル者ハ懲役四十日因テ罪ニ増減アル者ハ
失出入人罪ヲ以テ論ス若シ財ヲ受ケ故サラ
ニ實ヲ以テセサル者ハ故出入人罪ヲ以テ論
ス贓重キ者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ後
テ論ス

答杖不知法

凡官吏答杖ヲ用ルニ故サラニ法ノ如クセサル
者ハ答三十因テ死ニ致ス者ハ杖一百埋葬金ニ

カサデニキン

十五兩ヲ追徴ス答杖ヲ行フノ人ハ各一等ヲ減
シ金兩ヲ追徴セス若シ罪人ノ臀腰刑ヲ受クハ
キ處ヲ法ニ依リ決打シテ邂逅ニ死ニ致ス者ハ
論スルヲ勿レ

婦人犯罪

凡婦人輕罪ヲ犯スハ本夫ニ責付シテ保管セシ
ム如シ夫ナキ者ハ親屬鄰保ニ責付シテ保管セ
シム重罪ハ禁獄スルヲ許ス違フ者ハ答三十
若シ婦人懷孕シテ罪ヲ犯シ拷訊スヘキ者ハ上
條ノ如ク保管シ産後一百日ヲ待テ拷訊スヘシ

若シ未夕産セサルニ拷訊スル者ハ杖九十因テ
 墮胎スル者ハ徒一年半死ニ致ス者ハ流三等
 若シ懷孕ノ死囚ハ穩婆ニ看視セシメテ後ニ監
 禁ス産ノ期ニ臨メハ親屬鄰保ニ責付シ産後一
 百日ヲ待テ乃刑ヲ行フ未夕産セスニテ決スル
 者ハ徒一年半産シ訖ルモ日限未夕満スニテ決
 スル者ハ杖八十失誤スル者ハ各三等ヲ減ス
 滋賀縣伺 六年七月
 十四日
 婦人犯罪條中重罪ハ禁獄スルヲ許スト
 アリ右重罪トハ收贖ヲ聽サ、ル懲役一年

以上ノ罪ト相心得可然哉

指令

此條ノ重罪ハ姦盜不孝人命放火等ノ收贖
 ヲ聽サ、ル罪ヲ云フ
 死囚奏請待報
 凡死囚ヲ奏請シ回報ヲ待タス輒ク處決スル者
 杖七十
 若シ禁刑ノ日ニ於テ決スル者ハ笞三十
 死囚奏請待報條例
 第三百十六條 凡獄已ニ成リ罪死ニ決ル者ヲ

奏請シ待報内ニ在テ死亡スルニ遺體ハ親屬
請フ者アレハ下附スルヲ聽ス

斷罪不當

凡罪ヲ斷シテ決配ス可キヲ故サラニ收贖シ收
贖ス可キヲ決配スル者ハ故出入人罪律ニ依テ
一等ヲ減ス失誤スル者ハ失出入人罪律ニ依テ
一等ヲ減ス

若シ絞ス可キノ故サラニ斬シ斬ス可キノ絞ス
ル者ハ笞五十失誤スル者ハ三等ヲ減ス

滋賀縣同 六年九月四日

斷罪不當條收贖ス可キヲ決配シ云々失出
入人罪律ニ依テ一等ヲ減スト此條中贖罪
ス可キヲ決配スルノ儀ナシト雖モ失誤ナ
レハ失入ヲ以テ論シ一等ヲ減シ可ナラン
力然ニ元來贖罪ス可キニ無力者ハ減等セ
ス本罪實斷ス由是之ヲ觀レハ實斷贖罪ノ
輕重大ニ差異無キニ似タリ且又尋常失出
入ハ本罪除去スル法アリ此條中本罪除去
スルノ法ナシ只纒ニ尋常失出入ニ一等ヲ
減スルノミ依テ輕重權衡如何

指令

實断ト贖罪トハ其權衡相當ル者トス断罪
不當條獨リ收贖ヲ辨シテ贖罪ヲ説カサル
片ハ之ヲ不問ニ置テ可ナリ然ト雖モ故意
ニ出テ實断ス可キヲ贖罪ニ贖罪ス可キヲ
實断スルカ如キハ犯人ノ口供ヲ以テ伺フ
可シ

断罪不當條例

第三百十七條 凡收贖ス可キヲ誤テ實断スル
者改正スルヲ得ヘキ者ハ改正シ其實断ス

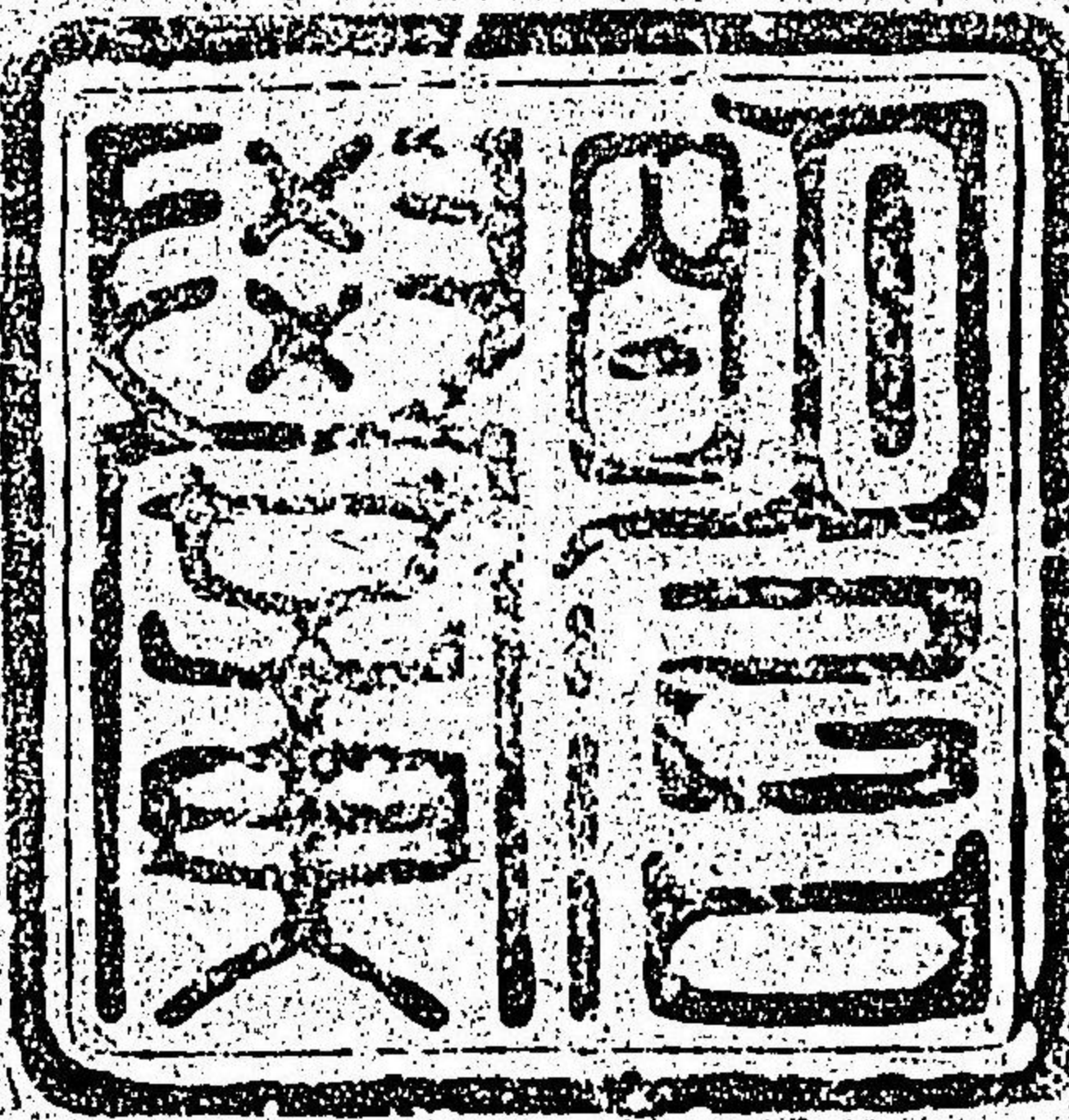
可キヲ誤テ收贖スル者ハ貼断スルヲ用ヒ
ス

第三百十八條 凡罪ヲ断スルハ口供結案ニ依
ル若シ甘結セシテ死亡スル者ハ證佐アリ
ト雖モ其罪ヲ論セス

擬律必携四編下終

撰
行
心
撰
四
編

明治八年五月十八日
免許同年八月刻成



此昏編纂切埃ルノ後紙數殆ニト十卷ニ垂ニト
ス故ニ全部卒業ノ時ヲ期セント欲セバ時日ノ
遷延ヲ恐ル因テ今此編ヲ梓行シ七月中將
編ノ切ヲ終ラントス

